月　日

名前

／

実力UP! - Seminar -

1 次の文章を読み、後の問いに答えなさい（出題のために一部文章を改めた所があります）。

ある遁世の上人の、学生なるが庵室へ、※修行者常に来る。中にある修行者の云はく、「法師は生まれてより後、すべて腹を立て候はぬ」と云ふを、上人の云はく、「※凡夫は、※貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ※浅深厚薄こそあれ、いかでか腹立ち給はざらむ。※縁にあはぬ時こそ立たね、また※立つを覚え給はぬか。※聖人にておはしまさば、①―さもあるべし。凡夫ながらかく宣ふ、［　②　］と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立たぬにておはしませかし。人を※虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふぞ」と、顔を赤めて、首をねぢて叱りければ、「さては、さこそは」とて③―やみけり。※嗚呼がましく侍り。凡夫の習ひ、④―我が非は覚えぬとこそ。

（「沙石集」より）

（注）
※修行者……諸国を巡り仏道や修験道などの修行をする人。
※凡夫……悟りの境地に達していない者。
※貪瞋痴……貪りと怒りと無知。
※具せり……備えている。
※浅深厚薄こそあれ……程度に差はあっても。
※縁……機縁。怒りを起こすきっかけ。
※立つを覚え給はぬか……怒ったことを覚えておられないのか。
※聖人……悟りの境地に達した者。
※おはしませかし……お思いになっておけばよいではないですか。
※虚事……嘘。
※首をねぢて叱りければ……首をねじって怒鳴りつけたので。
※嗚呼がましく……愚かで。

問一　―部を現代仮名遣いに改めなさい。（　　）

問二　―部①の内容を本文中から十八字で抜き出し、始めと終わりの三字で答えなさい（句読点も字数に含む）。［　］～［　］

問三　［　②　］に入る言葉として最も適当なものを本文中から二字で抜き出して答えなさい。［　］

問四　―部③の主語を本文中から三字以内で抜き出して答えなさい。［　］

問五　―部④の内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　上人が、事実に反して自分を聖人だと称していること。
イ　上人が、修行を積んだはずなのに凡夫のままであること。
ウ　法師が、記憶をなくしたふりをして上人をだましていること。
エ　法師が、自分は怒らないと言いながらも怒っていること。